編集後記

2019 年末、まさか自分たちが生きている時代に、未曾有の感染症パンデミックが起こるとは想像もしていませんでした。私たちは旅行はもちろん、外食やライブハウス、劇場にも出かけられなくなり、外出自粛の日が続きました。

舞台芸術は不要不急だと言われ、劇場や音楽堂は閉鎖、アーティストたちは電話やメールでいとも簡単に仕事を断られ続けました。さらに音響、照明、大道具など舞台を支える仕事をしている人たちも、軒並み生きる糧を失いました。いつ終わるともしれない感染症の流行により、自分たちが生涯をかけてやってきたことが否定され、食べていくためにやむを得ず仕事を変えざるを得なかった人たちもたくさんいました。

そんな鬱々としたステイホームが続く中、心を奮い立たせるような配信映像がありました。劇団四季の俳優たちが個々の家庭からオンライン会議システムを使って集まり配信した『レ・ミゼラブル』の「民衆の歌」です。その圧巻の歌声は「そうだ！俳優も演奏者も、舞台のスタッフも、みんながいなかったら、こうやって音楽を聴くことも映画を観ることもできなくなってしまうんだ。芸術は、不急かもしれないけれど、全ての人にとって必要不可欠なものなんだ」と確信を持つに余りあるものでした。

ゆめたろうプラザでのコンサートの再開は 2020 年 9 月のジャズライブでした。客席は一席おきの一松模様状態でしたが、半年ぶりの舞台に、演奏者もお客様も、胸が熱くなるほど待ち焦がれていたんだということが、トークやアンケートからひしひしと伝わってきました。

また、毎年小学 4 年生を対象におこなってきた学校アウトリーチですが、2020 年度は中止となりました。「この学年の子たちは、受けられないのね…」という悲しそうな音楽の先生の言葉に、2021 年度に 2 学年 22 学級やろう！と決め、アーティストには 3 週間滞在していただき、最後のホールコンサートも含めると全 23 公演、全力で演奏し続けていただきました。校長先生から「生の音楽は心を震わせる力を持っている。だから子どもたちに聴かせたいんだ」という言葉をいただき、アーティストは、「自分の存在意義が揺らいでいた時期だけに涙が出るほど嬉しかった」と語ってくれました。

記録誌「文化でつなぐまちづくり」Part.1 では、主にゆめたろうプラザにおける住民と行政の協働の運営の立ち上げの記録を書きました。そして立ち上げから 21 年経った Part.2 では、地域に根を張り、たくさんの人に愛されているゆめたろうプラザの姿を、誌面のあちこちに見ることができます。

皆様から頂戴したメッセージや会員コメントを読むと、ゆめプラには、あふれるほどの“愛と想い”がいっぱい込められているんだなと、改めて感じます。

制作にあたり、本当にたくさんの方にご協力いただき、感謝でいっぱいです。

これからも、ゆめプラがますます地域の宝となり、私たちの暮らしを豊かにするプラットホームとなるために、次の世代と共に、「協働のまちづくり」の歩みを進めてまいりたいと思います。

皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

記録誌編集委員会　委員長　高橋洋子



ＮＰＯたけとよのゆかいな仲間たち　2025.10.26

文化でつなぐまちづくり
ー NPO たけとよとゆめたろうプラザの協働の軌跡ー
Part2

編集委員会

委 員 長　高橋　洋子
副委員長　髙木　正博
編集委員　青木　早苗
　　犬塚　久夫
　　宇津野　直
　　櫻場　敬信
　　関口　美恵
　　左右木星志
　　髙木　幸江
　　田嶌　美保
　　土田美奈子
　　戸田　朋子
　　山本多恵子
　　百合草とし

特定非営利活動法人武豊文化創造協会
（NPOたけとよ）
〒470-2555　愛知県知多郡武豊町大門田11番地
TEL:0569-74-1211／FAX:0569-74-1227
e-mail:npo@yumetaro.net

2026年1月発行
製作　tutti design